特　別　号

きなざっせ

九州中央病院広報誌「特集第 18 号」 2014 年７月　　福岡県指定がん診療拠点病院

がん診療への取り組みについてのお知らせ

病院長　飯田三雄

患者さんをはじめ、（地域医療）連携病院の先生方、共済組合員の方々に九州中央病院の最近の取り組みについてお知らせしたいことがあり、広報誌の特別号を発行することにしました。

当院は平成２２年４月に福岡県指定の「がん診療拠点病院」に認定され、既に４年が経過しました。この４年間で、医師を含むがん専門スタッフの確保、医療機器の整備、診療科の充実、手術件数の増加など様々な取り組みを行ってきました。直近の取り組みとしては、平成２５年１月に「緩和ケア外来」、同年１１月に「がんサロン」を開設したところです。

さて、今回、新たに３つの取り組みをはじめましたのでお知らせします。今後も皆様のお役にたてるよう、「がん診療」を充実させてまいりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

基本理念　病んでいる人の人権を尊重し、健やかで心豊かな社会をつくるための医療を提供します。

基本方針

	Progressiveness	常に向上心を持ち何事にも積極的に、前向きに対処する
	Hospitality	医療される方々の立場に立った、満足の得られる医療を行う
	Superiority	質の高い、高度な医療を目指す
	Rationality	合理的で、無駄のない医療、および医療経営を行う

目　次

病院長の言葉「がん診療への取り組みについてのお知らせ」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P１
放射線治療装置「Tomo　Therapy」について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P２
緩和ケア診療及び緩和ケア病床について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P３
がんのリハビリテーションについて　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P４

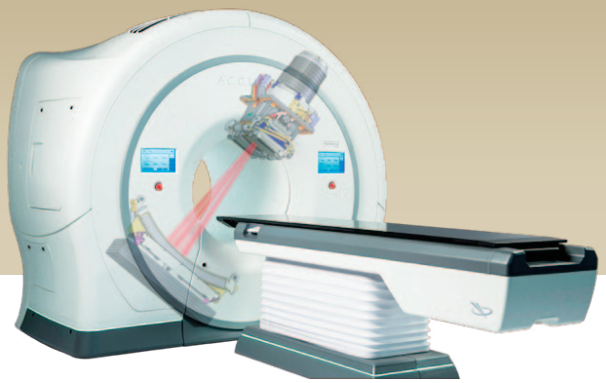
最新 高精度 放射線治療装置 導入

トモセラピー

放射線科部長　花田清彦

C　T

放射線治療装置



最新の高精度放射線治療装置 Tomo Therapy（トモセラピー）に更新しました。

５月連休明けから放射線装置を再開しています。

この装置は、これまでと違い、がんの形に合わせ、より正確に照射ができる最新鋭の装置です。

身体の周りを回転して照射する方式（ヘリカル）をとり、複雑ながんの形状に応じて、放射線に強弱をつけて照射ができる装置です。

毎回装置に付属する CT で撮影を行い、正確な位置合わせを行い、周辺の正常組織をさけ、がんの部分により高い線量の放射線を照射することができます。

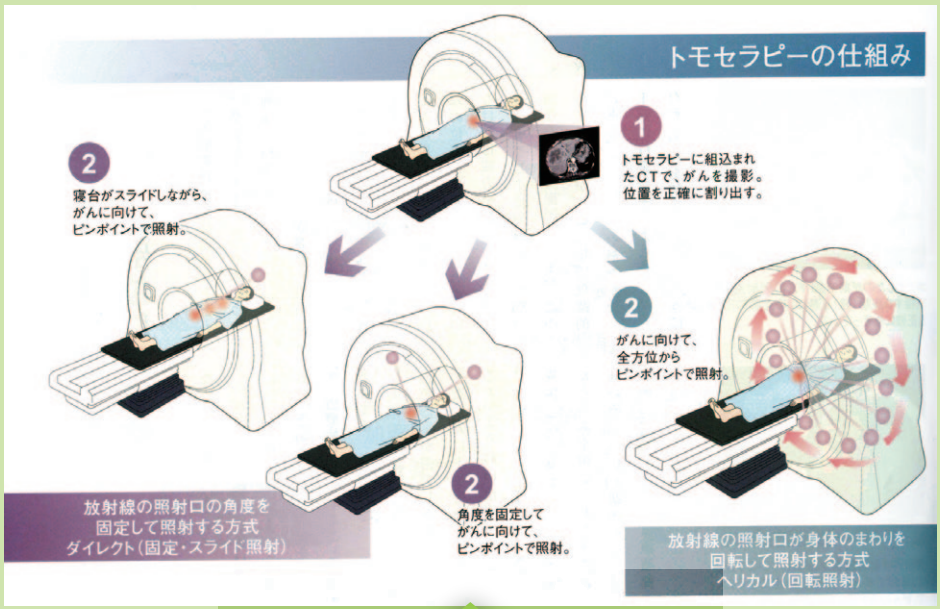
今回導入した装置は、角度を固定したまま照射できる機能（トモダイレクト）も備えています。

これまでと同様の治療も可能となり、治療の幅が広がりました。

総合的にがんの部位・種類に応じてより精度の高い治療ができる様になりました。

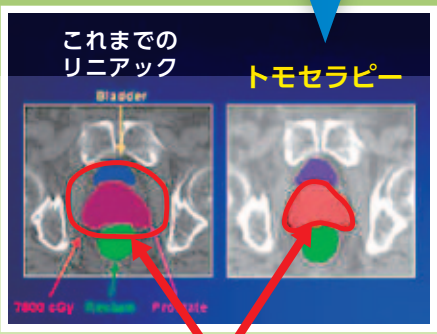
放射線治療品質管理を重点に置いた技師配置をする事で、厳密な治療品質管理を行い、より安心して治療に臨める体制となっています。

これまで放射線治療が難しかった部位への適応も広がります。



がんをピンポイントに狙い撃ちできる高精度放射線治療装置です

前立腺癌に特に有用です



照射範囲
（右図：前立腺のみに照射している）
青：膀胱　赤：前立腺　緑：直腸
の位置を示しています。

前立腺の照射例

九州中央病院における緩和ケア診療の現状

緩和ケアセンター長　舟橋　玲

当院は、福岡県指定のがん診療拠点病院の一つです。平成２２年に指定され、病院全体で、がん診療に力を注いでいます。その中の一つとして、緩和ケアの充実が挙げられます。当院では、昨年から緩和ケア外来、そして本年５月からは緩和ケア病床を開設し、緩和ケアの充実に取り組んできました。

緩和ケアとは患者さんを取り巻く様々な苦痛を和らげることを目的とし、患者さんやご家族を身体的、精神的、社会面など様々な角度から支える取り組みです。全人的ケアと表現されることもあります。従来、緩和ケアというと、様々な治療を行ってきた最終段階、終末期医療といった受け止め方をされる方もいらっしゃいましたが、これは、大きな誤解と言えると思います。緩和ケアとは、がんと診断された初期の段階から、外科治療や放射線治療、抗がん剤治療と共に、開始されるケアの一つです。

緩和ケアにおいて大切なことはいくつかありますが、その一つが、患者さんその人なりの生き方を、ご本人・ご家族と共に、時間をかけて考える、という点です。生き方、それは、やがて訪れる死に対して、どのように向かい合うかという事にもつながります。誇りある穏やかなその時を迎えるために、数年前、数か月前から、会話の機会を持ち、心の準備をしていくことが大切だと考えています。

そして同時に、痛み、苦痛の緩和も、大切なポイントです。進行したがん患者さんでは、多くの患者さんが痛みに苦しみ悩んでいます。痛みを我慢して辛い日々を過ごすのでなく、痛みをとって、日常生活をできるだけ通常に過ごしていただきたい、そう考えています。

当院では、緩和ケアチームを組織し、多職種で緩和ケアに取り組んでいます。医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、管理栄養士、リハビリ担当者、ソーシャルワーカーなど総計 17 名でチームを作り、症例検討会議を通して、患者さん一人一人に対して、より適切な緩和ケアができるよう取り組んでいます。

緩和ケア外来は、月曜から金曜まで毎日診察ができますが、その内容上、基本的には予約制としています。当院に通院中の患者さんの場合は、主治医の先生や外来・病棟の看護師さんにご相談いただくと良いと思います。

緩和ケア病床は、今はまだ４床でのスタートです。全室個室で、部屋もきれい、眺望も良く、患者さんやご家族の皆さんから喜ばれています。

病院の新築、その後の改装などを経て、将来的には２０床程度の緩和ケア病棟が完成する予定です。これからも、福岡県を代表する、がん診療拠点病院の一つとして、緩和ケアの充実に取り組んでいきたいと思います。

緩和ケア病床について

1 病棟 看護師長　山田 朋子

平成 26 年 5 月 26 日、1 病棟内に緩和ケア病床 4 床が開設されました。私達は、がん患者さんのがん特有の痛みや倦怠感、心の痛みや不安をやわらげながら、患者さんやご家族にご家庭で過ごされるのと同じようにその人らしい日々を送っていただきたいと思っています。

木目を基調としたお部屋のほかに、ご家族の面会や茶話会、お誕生会、季節の催しなどにご利用いただける緩和サロンも設置いたしました。医師、看護師をはじめコメディカルのスタッフ皆で連携し、患者さんやご家族お一人おひとりの思いに添えるケアを目指しております。

緩和ケア病床の一室

緩和サロン

がんのリハビリテーション

リハビリテーション科部長　竹迫仁則
作業療法士　町本周平

がんのリハビリテーションとは？

「がんのリハビリテーション」には、がん医療全般の知識が必要とされると同時に、運動麻痺、摂食・嚥下障害、浮腫、呼吸障害、骨折、切断、精神心理などの障害に対する専門的な知識や技術が必要です。そこで今年４月より専門の資格を持ったリハビリスタッフを病棟に配置し「がんのリハビリテーション」を行っていくことになりました。病棟配置にすることで、転倒・転落等の病棟生活上のリスク管理、廃用症候群の恐れのある患者さんへの早期対応、安静度に関する情報共有、主治医との日常的な情報共有、早期退院支援などのメリットがあります。

がんのリハビリテーションで何をするの？

「がんのリハビリテーション」では、がんの進行もしくはその治療の過程で、運動麻痺、筋力低下、拘縮、しびれや神経因性疼痛など様々な機能障害により日常生活活動に制限を生じ QOL の低下を来たすため、これらの問題に対しリハビリ介入します。術後の患者さんであれば初期には早期離床、病棟内生活の介助量軽減を目的に介入します。また化学療法、放射線療法を行っている方、自宅退院予定の方には、スムースに元の生活に戻れるように、がんによる障害の軽減、運動機能、生活能力の維持や改善、介護予防を目的として治療的介入します。対象者は、がんに対し手術・化学療法・放射線療法のいずれかを施行又は施行予定の方や、緩和ケア主体で治療を行っている進行がん、末期がんの患者であって、症状増悪のため一時的に入院加療を行い、在宅復帰を目的としたリハビリが必要な方です。

その他に

その他の活動として、リハビリスタッフは毎週火曜日に行われる緩和ケア回診に参加し疼痛の緩和や在宅復帰に向けたリハビリ介入の検討、毎週金曜日には医師、看護師、ソーシャルワーカー、リハビリスタッフが参加し、カンファレンスを行い情報の共有に努めています。

がん治療の進歩とともに、“ 不治の病 ” であった時代から、“ がんと共存 ” する時代となり、障害の軽減、生活能力の改善を目的としたリハビリ介入の必要性は今後さらに増えていくと思われます。「がん診療」の充実に貢献できるよう、「がんのリハビリテーション」を通じ、当科に課せられた役割を果たせるよう邁進していきます。